

◆◆ 土づくりからはじめましょう ◆◆

★収量アップ (キュウリ、ナス、トマトなどの果菜)

花芽が増えて、収穫期間が長くなるので**たくさん収穫**できる

★味の向上 (メロン、トマト、キュウリなど)

ビタミン、核酸、生理活性物質などが生産され、**糖度が増す**

★健全な生育 (連作障害に負けない野菜づくりに)

抵抗性が増すため、**病虫害に強く育つ**

土壤微生物を起爆する
土壤改良資材

キチナーゼ

大切なのは、根張りよく生育すること

<作物の高品質・収量アップのために>

- 根を育てる
- 土壤の物理性を整え、微生物を育てる

- 微生物を育てる種菌的効果になり、土着の微生物相多様化します。
- 土壤の物理性を整えることで、細根と根毛が発達した理想的な根圏になります。
- 肥料が有効に吸収されます。
- 生育促進、品質・食味の向上につながります。



<連作障害対策のために>

土壤病害の予防と対策は、総合的に。土づくり、育苗、栽培法、それぞれのステージで最大限の防除をして、病害との闘いに勝ちましょう。

●発生初期、中発生●

畑にはそれぞれに“土着の微生物”が棲み、土の性質と同じように、畑の個性となっています。土壤消毒した圃場に有用微生物を復活させるために、定植前に「キチナーゼ」を植え穴施用または条施用して、根域の微生物を多様化します。

発病株はできるだけ取り出し、土壤病害の発生部分に「キチナーゼ」を多めに撒いて混合し、多様化したバランスのよい微生物相をつくって病原菌の増殖を防ぎます。

●激発生圃場●

「育苗用キチナーゼ施用」と「植え穴施用」の併用が理想

圃場は土壤消毒で病原菌の菌密度を下げてから、残された土着の有用微生物の復活を高めることが大切。定植前に「キチナーゼ」を植え穴施用または条施用すると、有用微生物が増殖する起爆剤となり、根域の微生物が多様化することで発病抑止型土壤に近づけます。

定植するセルリーの病害防除効果を高めるためには、健苗を植え、活着よく順調な初期生育をさせることが肝心です。「育苗用キチナーゼ」施用による苗は、がっしりとした根量の多い健苗ですから、発病しにくい土壤条件と、抵抗力のある作物による相乗効果が期待できます。

定植した苗は、収穫まで順調に育てて、より高く販売したい…

★生育促進★

★耐病性を向上★

★硝酸イオン含量低減★

圃場用

土壤改良活性材「キチナーゼ」

： カニガラなど数種の有機物を配合



土壤改良活性材
「キチナーゼ」15kg入

施用法

●全面全層施用 定植前に「キチナーゼ」を**10袋～15袋**

150～225 kg/10aを全面全層に施用する。

●畝施用 畝だけに混合。10～15cm深で**500g/3.3m²**見当

●堆肥混合 堆肥1t当り、**約3～5袋(50～80kg)**を混合する。

●植え穴施用 ポット苗の作物



洗濯洗剤アタックの計量スプーン1杯を
約30gの見当に